

## カンボジア社会のジェンダー不平等について ポーン・ハウン（カンボジア）

ジェンダー不平等とは、集団、共同体、社会の中で男女が有する地位、権力、特権に関わる相違のことを指します。カンボジアには依然としてジェンダー不平等の問題がありますが、それは人びとが女性よりも男性が優れているといまだに信じているからです。一般的に、カンボジア社会において女性は男性よりも劣った存在とみなされ、しばしば精神的に弱いと考えられています。この傾向は特に農村地域に広く見られます。

太古の昔、カンボジアの女性の地位は比較的高く、古代クメールの歴史の中で優れた女性の指導者が数多く存在しました。言語学的観点からも、古代クメールの歴史上の女性の地位は高いと考えられました。クメール語で **Me** とは「母」を意味し、「**Me toup** (司令官)」「**Me krom** (指導者)」のような派生語が生まれました。古代において、クメールの女性は中央政府の要職に就き、国家建設に大いに貢献していたのです。現在のカンボジア領土と重なる最初の古代国家はフナンとノコールプノンで、1世紀から6世紀まで存在しており、フナンはネアン・ネアクという女王によって統治されていました。

アンコール王朝では、インドラデビ女王がジャヤヴァルマン7世の王妃として、王制に大きな影響力を持っていたといわれています。インドラデビ王妃は高い教育を受けた多才な人物でした。仏教僧院の教授を指揮して国王の碑文を作らせたこともあります。王妃は最初の女性のロールモデルであり、国家の社会・教育・宗教の発展に貢献した人物です。このように、アンコール王朝の社会において、意思決定過程やその他の場面で支配的な役割を果たしていたのは女性でした。

しかしながら、15世紀にアンコール王朝が終焉を迎えると、女性の地位は徐々に下がっていき、男性に従属するようになりました。現在のカンボジア文化においては、女性の権利と自由はあらゆる側面で制限されています。慣習、信仰、社会規範、そして女性に課される行動規範が女性差別を助長し、女性の男性への従属に拍車をかける結果となっています。



日常生活の意思決定過程への参画の大半は男性。  
プレイベン県メサン地方チポコミュニティにて

また、女性が男性と対等でないのは、男性のほうが知的であると男性自身が思っているためであり、それゆえ、カンボジアの人びとの頭にはジェンダー不平等の考えが深く根を張っているのです。そして女性自身も、女性が男性よりも知的に劣った存在であると信じ込むようになった結果、日常的なレベルでの意思決定過程に参画する意欲を失くしてしまい、政治的社会的活動に参加するのを厭うようになります。また、そればかりではなく、女性は幼い

ころから家事をさせられたり、男兄弟が遊んでいるのに母親の手伝いをさせられたり、両親の決めた結婚を受け入れ、結婚後は夫が外で働けるように支え、子育てをします。「女性の行動規範」という教えは、少女は将来、夫に対して忍耐強くあるべきこと、自分の法的権利を主張してはならないことを説いています。成人女性の約 25%がドメスティックバイオレンスを経験しながら、夫の暴力を我慢するように教育されているのです。農村では女性のプライベートな領域に関わるこのような根強い社会通念が今でも存在しています。女性は両親や夫に従うべきであるという古い考え方は、女性はその能力を活用して社会で活躍したり、コミュニティの発展に関わる意思決定の場に参画したりする機会をも制限しているのです。



男性は意見を述べようと出てくるが、女性はそうしない。

カンボジアの人びとがこのような固定観念に囚われている一方、カンボジア国憲法を見てみると、カンボジアの最高法の第 31 条では以下のように唱っています。「クメール国民は法の下に平等であり、人種、肌の色、性別、言語、信条、信仰、政治志向、出生、社会的地位、財産、その他の状況に関わりなく、同等の権利、自由、義務を享受する。ある個人の権利および自由の行使が、他の者の権利と自由の行使を妨げるものあってはならない。このような権利

と自由の行使は法律に従ってなされるものとする。」

ここには法の精神と国民の固定観念とのギャップが表れています。なぜこのようなギャップが生じるのでしょうか。人びとがこのような考えに固執するのは、無学、信仰、慣習、社会規範に基づいています。特に農村の人びとは法律を身近なものとは感じておらず、識字率も国全体で 49%と低いのが現状です。また、計画省統計局によると、都市部の識字率が農村部のそれよりも男女とも高く、その傾向は年々強まっています。それゆえ、農村部の女性は公的な決定を下す局面において、積極的に参加したり、自分の懸念や要求を表明したりする意志を持たず、また男性のように、公的、政治的、社会的活動において意思決定をする立場になりたいとも考えないのです。

農村の人びとは、男性が女性よりも優れているという固定観念を抱いています。家庭と社会の双方で中心的役割を果たすのは男性だと考え、女性は自分たちが男性よりも劣る存在だと思っています。その結果、カンボジアの人びとにとって、現代においてもなお、ジェンダー不平等という障害が残っています。この問題を解決するには時間がかかりますが、政府は教育に一層力を入れて、教育制度の充実を図り、国民の識字率を向上させなければならぬのです。